

パセリ（夏播き、春播き）

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作 型	夏播	○ ——— ○◎ ——— ◎ ———											
	準高 冷地 春播	—— ◎ ——— ○ ——— ◎											○ —
主な作業		春播 直播				夏播 直播		ポ ッ ト 播 種 始 め		間 引 植 定 植		夏播 収 穫 始 め	

パセリ セリ科、原産地：地中海沿岸地域
作物名 パセリ
学 名 *Petroselinum crispum* Nym.
作 型 夏播き、春播き

壤土ないし粘質壤土に適する。
土壌酸度はpH5.5～6.8に適する。pH5以下の酸性では生育が悪い。

技術体系

- 1 作型の特徴
- 平坦地から高原地域までの標高差を利用して栽培すると、年間栽培が可能であるが、平坦地域は夏越しが難しく、高原地域は冬越しが難しい。そこで、平坦地域と高原地域のリレー栽培が望ましい。
- 2 適応地域
- 平坦地域・高冷地
- 3 栽培条件
- (1) 温度
- 冷涼な気候を好み、生育適温は15～20℃で、25℃以上の高温になると生育が劣り、28～30℃になると、外葉が枯れてくる。低温でも生育するが、保温しないと商品価値のあるものが収穫できにくくなる。
- (2) 土壌条件
- 乾燥に弱いので、有機質に富む水持ちの良い砂質

- 4 施設装備
- (1) 連棟、単棟、トンネルでもよい
(雨よけが可能な施設)
- (2) 灌水施設(天井散水か地上灌水)
- (3) 連棟ハウスの場合は換気装置必要
- 5 経営目標(千葉県安房郡の農家の場合)
- (1) 収量 3～4 t/10a (夏播)
2 t/10a (春播)
- (2) 投下労働時間(10aあたり)
- | | |
|------|------------|
| 収 穫 | 4 4 8時間 |
| 出荷調整 | 6 0 0時間 |
| 合計 | 1, 3 8 0時間 |
- (3) 所得率 4 0 %
- (4) 経営規模 2 0 a
- (家族労働力2人、年間1期作の場合)

栽培技術

- 1 品種と特性
- 品種はパラマウント系統か、自家(選抜)採種した

ものが多く利用されている。

「グランド」

- 縮緬、濃緑厚葉で耐病、耐寒、耐暑性の強い系統を長年に亘り選抜、改良育成した独特の品種です。
- 日持ち良く太茎で伸長はすばらしくよく農産で束数ができ一般のパセリーより 3 割位増収となります。
- 東西市場で断然人気があり、パセリーの王様・最高の品質で大栽培市場出荷用に本種ほど優秀なパセリーは他にありません。
- 本種は春蒔きで最も良く特性を発揮しますが夏蒔きや秋蒔きで低温期の収穫が主となる栽培型でもマルチやトンネルを行なった時にはかなりの豊産性を示します。

2 育 苗

(1) 育苗ハウス

風通し、水の便、日当たりの良い場所を選び、ハウスの両サイドを解放し、循環扇や換気扇等風通しをよくし、高温時には、天井部に寒冷紗を張り、日除けを行う。高設ベンチによる育苗等も効果的である。

(2) 播種

直播とセル苗があるが、最近ではセル苗による育苗が多くなっている。

圃場の選定は、根が直根性で深く張るので、耕土が深く、排水のよい圃場を選定する。

水田地帯は、排水性のよい土を客土盛土して排水対策とする。

直播きをする場合は、畦幅 120 cm、条間 30 cm の 3 条播きとする。播種量は、15～20 cm の間隔で 5～10 粒の点播した場合、10 a あたり 2 l 必要である。播種後は、乾燥防止に寒冷紗等で被覆し、天井散水かチューブ灌水を行う。発芽は、播種後 10 日前後を要する。発芽したら、寒冷紗を除去する。

セル苗育苗の場合は、200 穴セルトレイを利用する。

種子量は、1 鉢 5～8 粒程度播種すると 10 a あ

たり 200 ml～300 ml 必要となる。

発芽をよくするため種子を一晩水に浸すか、かけ流して播種する。播種後 4～5 日は、過湿にならない程度に、毎日午前中に灌水する。

(3) 間引き

本葉 2～3 枚時に、徒長気味のものや奇形葉株を中心に間引き、本葉 5～6 枚時に徒長、生育遅延、縮み、色の悪いものを間引きし 1～2 本残す。

3 定植準備

(1) 土壌消毒

生育初期の立枯病、軟腐病、疫病の防除にクロールピクリン(1 穴当たり 2～3 ml)を使って消毒する。

(2) 施肥

葉の色や光沢が、品質に大きく影響するので、有機主体の施肥が望ましい。特に、冬場の肥料不足は、葉色が悪くなったり寒害を受けやすいので、堆肥を十分に施しておくことが大切である。ポリマルチ栽培の場合は、緩効性肥料を基肥中心に設計する。

敷きわら栽培の場合は、基肥と追肥を半々位にし、追肥は間引き時と 20 日おき位に施用する。

冬取り栽培では、施肥量が多くなるので注意する。

施肥量 (K g /10a)

	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備 考
基 肥	25	35	25	堆肥 3 t 苦土石灰 100 kg
追 肥	15	5	10	
全 量	40	40	35	

4 定 植

定植前に鉢やベッドに十分灌水し、株間を 30 cm として、10 a あたり 8,000 株を定植する。深植えに注意し、定植時に十分灌水し活着をよくする。

5 敷きわら、灌水

夏播きの場合、地温の上昇や乾燥、病害虫が発生

しやすくなるので、敷きわらを行い防止する。マルチ栽培の場合も地温が高くなる時は、マルチの上にわらを敷くことがある。灌水は、ハウス栽培や、晴天が続いたりすると、水分不足になると葉につやがなくなるので、10日毎に200mm程度の灌水が必要である。

6 保 温

11月上旬から、外張りビニールを被覆し、日中の気温25℃前後で管理し、夜間は最低気温2℃を確保する。

7 収穫・出荷

鋸歯葉の反転の程度で、収穫期を判断する。収穫期に達していない未熟な葉は内側に巻いていて、葉全体が白っぽく見えるが、徐々に開き始め葉の表側が半分ほど見えたときが収穫の適期葉色やつやが出てくる。

本葉10～15枚の大株に生育し、葉が濃緑で縮みのよい葉から随時収穫する。生育の早い時期は3～4日で1枚、低温期では5～6日で1枚ずつ発生するので、1株葉数8～10枚は残しておく。出荷は1束200gに調整し、セロファンで包装し出荷する。